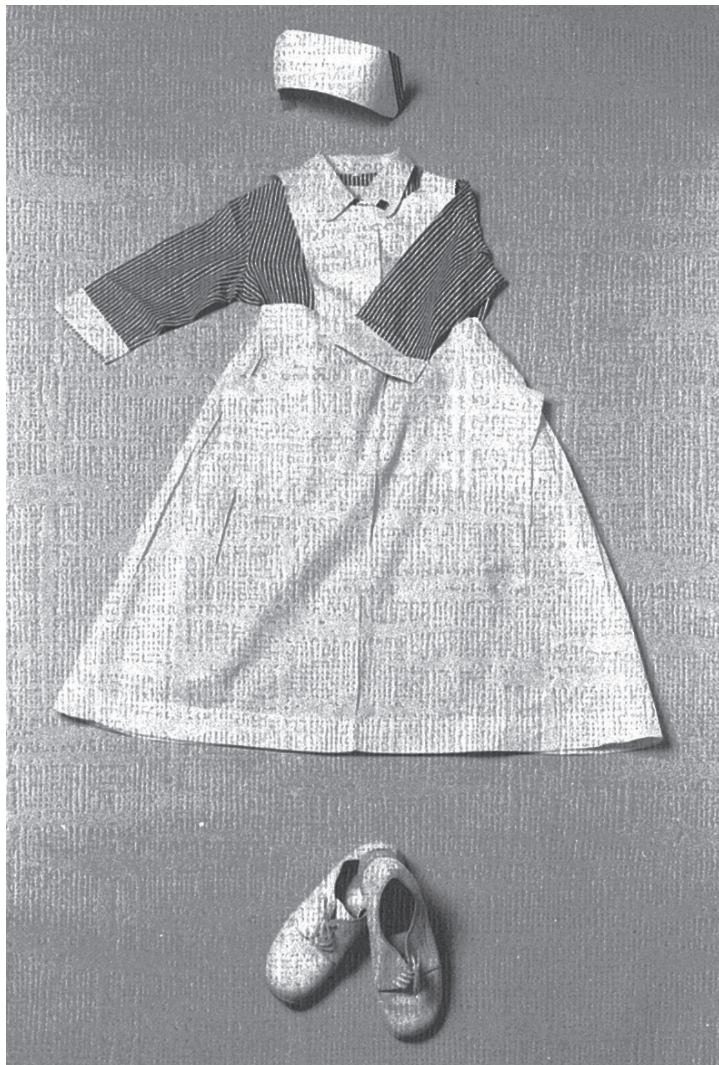


第11編

ユニフォームの歴史



19回卒業アルバムより

制服(黒のシャネルスーツ)

27 回生まで続いた制服(黒のシャネルスーツ)は、NDK(日本デザイン文化協会)の伊藤喜登次氏が、専任教員だった川口よね子先生の紹介でデザインし、最初は、在校生一人一人を採寸してオーダーメイドで縫製して下さった。制服は、季節的に幅広く着用でき、卒業後も冠婚葬祭などに活用できるという意図で作られた。

その後は、入学が決定した学生達に学校から送られる書類の一つに制服のデザイン画が入っていて、新入生はそのスーツで、入学式を迎えていた。

現在も、伊藤氏はお元気で名古屋にお住まいとのことである。



式典で黒の制服を着ている1・2回生
最前列は入学生の3回生(昭和41年)



左から清水(大西) 平松(柴生田) 中山(田中) 荒井 坂本 岸(市戸)
東医祭に参加している4~6回生(昭和42年11月)



12回生の入学式
(昭和50年4月)



20回生の臨地実習
(昭和60年)

実習のユニフォーム

実習ユニフォームの始まり

実習ユニフォームが完成したのは、当時専任教員をされていた川口よね子先生や1～3回生の方々の情報、学内に残されているアルバムなどから、昭和40年の秋にはできていたようである。2回生が1年次の戴帽式で着用している写真があり、1回生は卒業式で全員着用している。実習ユニフォームができるまでは、右の写真のように木綿の白衣と三角巾を身に着けての実習であった。3回生は最初の実習から現在の縦縞ワンピースとビブを着用していたようだ。



木綿の白衣・三角巾で実習する2回生

デザインの決定は、当時の看護学校の先生方が、在学中の1・2回生に実習ユニフォームはどの様なデザインが良いかと尋ねられ、2回生の河津(水野)芳子さんが高校生の頃、NHKで見た看護婦物語(原題:The Nurses,アメリカのドラマで昭和38年～昭和40年NHKで放送)に出てきた看護学生の服を思い出しながら描いて提出し、最終的に学校が今の形に決定したとのことである。当時教務主任であった加藤三千子先生は、「ビブ(白いエプロン)の形がかわいい」と気に入っておられたとのことである。

仕立ては、最初の依頼から現在まで墨田区にある内藤商店さんに依頼している。ちなみに内藤商店さんは、准看護婦学校時代からお世話になっているそうである。昔はお兄さんが担当されていたが、今は弟さんの代になっている。

実習ユニフォームの変遷

ビブのウエストから下のスカート部分のタックは、昔のほうが多く入っていてふんわりしていた。



かつてビブのスカート部分にはタックが多くとられており、裾は今よりも広がった。(12回生)



近年(45回生)

縦縞のワンピースは、最初は七分袖しかなかった(2回生のメッセージにある集合写真参照)が、しばらくして七分袖と半袖ができ、それが長らく続いた。しかし、近年は感染予防上、前腕の手洗いを徹底する必要性と、患者の体を支える時等に摩擦がないようにする、といった理由から半袖のみになっている。

平成25年の今も、戴帽式だけでなく、卒業式は3年生全員が実習ユニフォーム着用で式に参列している。

ビブの背中のだすきは、かつては交差していなかったが、いつの時代からか背中で交差するようになっている。



かつて戴帽式を受けていない基礎実習では、三角巾で髪の毛を全て覆っていた時代があった。現在は、戴帽式が2年生で行われており、戴帽を受けていない1年生の基礎看護学実習Ⅰと2年生前期の基礎看護学実習Ⅱは、水色の帽子を被って実習している。



基礎実習の時、三角巾で髪を覆っていた頃
この頭を学生たちは餃子頭と呼んでいた
(20回生)



三角巾が水色の帽子へ変化
この帽子は校内実習でも被る
(29回生)

キャップについては、かつて角張っていたキャップは、丸みのあるものに変化している。

また、学年を青ラインで表していた頃があったが、現在ラインはない。キャップの後ろを止めるキャップタックは校章マークになっている。

近年、看護師はキャップをつけなくなっており、東京医大病院も平成 25 年度、看護師のキャップが全面禁止となった。しかし、学生達はユニフォームの一環として現在も被っている。



キャップが角張っていた頃



キャップが丸くなり学年を青線で表していた頃:2本 2年生、3本 3年生



襟元の校章バッジと胸元につけていたネームは、その針が患者に関わるとき危険な場合があるため、近年は刺繍に変わっている。



ナースシューズは、かつて踵があるナースシューズで全員同じ形に統一されていた時代があった。途中、サンダルでもよい時代を経過し、現在は、踵があるナースシューズで、何種類かの中から選択するようになっている。



かつて全員統一の頃
(14 回生)



サンダルも選択できた頃
(27 回生)



踵があれば自由
(44 回生)

校内実習

学内での校内実習は、私服、白衣と三角巾、予防衣とキャップなど時代によって変化してきた。

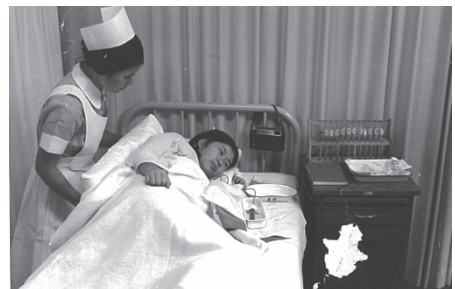


私服で校内実習を行っていた頃



学生は白衣・予防衣・三角巾。キャップを被っているのは先生

右の写真は、東医祭で清拭方法と胃液検査について展示するために撮影されたものである。



校内実習時、長袖の予防衣とキャップの時代があったが、現在は水色かピンクの袖なしエプロンと水色の帽子となっている。キャップの形も変化している。



現在

平成 25 年現在のユニフォーム



校内実習着



病棟実習着



手術部実習着



新生児室実習着



在宅等の院外実習着